

地域づくり推進交付金活用事業

島内地区	令和6年度	交付金額：750,000円
------	-------	---------------

取組み1 遊歩道整備事業

島内地区 山田町会主催

※

(1) 目的

豊かな自然や景観との共存と次世代への継承を目的とします。北アルプスを眺望できる市道1760号線や、山田町会から平瀬城跡につながる古道等を整備し、多くの人が訪問・回遊するルート等を発信して魅力ある「島内地区・山田町会づくり」に寄与します。

(2) 取組内容

市道1760号線沿いに植樹したサクラ・カエデの周辺の草刈りや剪定、施肥など維持管理を行いました。

平瀬城につながる古道の草刈り・倒木処理などの整備を行ったほか、史跡の看板設置を実施しました。

(3) 今後の展開

引き続き遊歩道の整備を行います。遊歩道マップの作成や案内看板の設置を進めるとともに、自然散策ウォークの実施も検討します。

→9/21 倒木処理

1月19日、26日 案内看板等組立、設置



取組み2 平瀬城跡整備保存活用事業

平瀬古城会主催
島内公民館共催

(1) 目的

島内地区の財産である平瀬城跡を、多くの住民の皆さんに知ってもらい、財産としての共有化を図るとともに、関係する住民の手で後世に残すことを目的としています。

(2) 取組内容

松本市特別史跡に指定されている平瀬城跡を地元町会や地区として、年間を通して整備し、

地域の活性化の材料としました。

ア 史跡整備(登城路・本城跡) 5/25 9/21 合計 44 名参加。

イ 第 4 回平瀬城跡狼煙まつり 10/5 午前 10 時～12 時

- ・ 今年度は、平瀬城跡の存在を広く周知するため、主会場は平瀬城本城跡から川合鶴宮八幡社に移して実施しました。(駐車場、トイレなどの問題やアクセスも勘案。多くの集客が可能な関連史跡を選定)
- ・ 新しい取り組みとして平瀬城跡や島内地区に関わる物品販売を実施しました。
- ・ 松本城鉄砲隊の演武のほか、援軍で真田鉄砲隊が砲術披露を行いました。



▲狼煙まつり 狼煙上げ

ウ 学習活動

- ・ 小学 3 年生の「地域探検」は地区内の史跡や文化施設を巡りました。
- ・ 染物体験を 8/14、8/21 の 2 日間で計 27 名が参加しました。
- ・ 令和 7 年 1 月に 10 名が参加して上田城周辺を散策し、城下町の構造などについて学習しました。



▲狼煙まつり 火縄銃演武

エ 酒造り

- ・ 島内の米を原料にした「平瀬城」を、地区内の笹井酒造により酒造し、会員限定で販売しました。

(2) 今後の展開

ア 平瀬城跡整備保存活動

会員の高齢化が進み、年 2 回の整備保存作業の人員を確保することが徐々に困難になっています。島内地区の住民のほか、城跡・山城つながりのネットワークを広げ、整備活動の底辺拡大を図ります。

イ 平瀬城跡狼煙まつり

令和 3 年から開始し、令和 5 年より岩原城跡(堀金)や猿ヶ城跡(大町)など他市他地区との連携をしており、平瀬城跡の史跡価値を広める大きなイベントとなっています。火縄銃の演武など主会場を鶴宮八幡社(平地)で実施としたため、本城への用具運搬人員の手配がなくなり、運営的には余裕ができました。いかに本城に登城して史跡を知ってもらうか、という課題はありますが、理解者の底辺拡大事業としての狼煙まつりは現状維持を第 1 義とします。

ウ 学習活動

特に次代を担う子どもたちに歴史的な価値を知ってもらうための学習活動を今後も重視しつつ、総合の時間を活用した体験学習等の推進を行います。

取組み3 町会主催行事応援事業

島内地区町会連合会 主催

(1) 目的

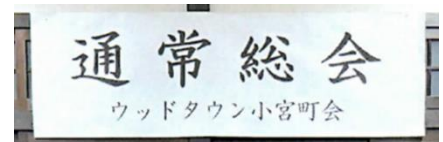
島内地区内の各町会や各種団体の事業の活性化を図ることを目的としました。

(2) 取組内容

島内地区内の各町会や各種団体において、会議や行事を実施する際に横断幕や垂れ幕等を印刷する長尺プリンターの消耗品を購入し、事業の活性化を図りました。

(3) 今後の展開

今後もプリンターを活用し、地区・町会事業の活性化を図ります。



取組み4 史跡保全事業

島内歴史文化調査委員会 主催

(1) 目的

各町会や各種団体の事業の活性化を図ることを目的としました。

(2) 取組内容

島内地区内の文化財を紹介する標柱や看板の補修を行いました。

稲干原旧石器出土遺跡、老根田縄文遺跡、陣畑跡、計3本の標柱塗り替え・アルミプレート板取り換えを実施しました。また、建替え用として、新規標柱4本購入しました。

(3) 今後の展開

経年劣化の著しい木製標柱が出てきています。今後、早い段階で、標柱の名称版の表面、裏面。標柱本体の柱立、塗装、基礎について再調査をする必要があります。

地域の文化財保全の一環として、史跡標柱を建立して周知をすることで、開発等による破壊・消滅を未然に防ぐように住民に注意喚起を継続します。現状、保存標柱や看板に興味関心を持ってくれる人が高齢化とともに少なくなっており、事業の再構築を行い、継承する体制を再整備します。

歴史文化調査委員会

標柱整備

稲干原旧石器出土遺跡 作業前

作業後



老根田縄文遺跡 作業前

作業後



取組み5 若者応援事業

島内歴史文化調査委員会 主催

(1) 目的

各町会や地区の枠組みに捉われず、役員等ではない活動や人材を掘り起こし、地区・町会の事業の活性化を図ることを目的としました。

(2) 取組内容

「地域づくりセンター強化モデル事業」の提案事業として実施した、若者による活動の提案事業が令和5年度で終了となり、若者の活動の掘り起こしを継続して支援していくために新たな交付金制度を町会連合会として新設しました。

4月；事業の提案受付け

5月：町会連合会地域課題検討委員会による審査、採択事業

①わくわく子ども運動教室事業 ②ハッピーPJ 事業

③桜彩プロジェクト事業 ④けん玉普及事業

の推薦、町会長会で採択事業の承認

6～2月：提案団体による活動の実施

3月：地域課題検討委員会による実施事業の成果等の共有等を行いました。

① わくわく子ども運動教室事業（わくわく子ども運動教室実行委員会）



松本短大の柳澤教授が開発された「柳澤プログラム」を用いた体操教室の実施を通じて、未就学児から小学生のための発達に合わせた運動遊びを行い、主体性を育む人間形成の場づくりを行いました。

年中・年長、小1～3、小4～6の3クラスで、側転・鉄棒・跳び箱・縄跳び・ラダー・リズムジャンプなどを通じて、「できた！」という達成感を得ながら、友人との関係性や社会性を育んでいきました。



② ハッピーPJ 事業（ハッピーPJ 実行委員会）



小グループや個人が「やってみたいこと」を実現する場として、サードプレイスづくりを目指しました。

結果的には、アルプス公園での「森でピクニック コーヒー」×柏餅づくり、おやき研究×下記を使ってできること、繭玉づくり×酵素玄米、といった複数のイベントを掛け合わせて実施することで、いわゆるマイノリティとくられる方々の社会参加の場にもなりました。



③ 桜彩プロジェクト事業

島内公園の桜のライトアップを通じて、人々が集まれる場づくりを目指しました。事業の実施を通じて、地区・町会の活性化を図るための人材の掘起こしを目指しましたが、そうした人材の集団化には至りませんでした。



④ けん玉普及事業

幅広い世代がけん玉を通じて交流できる場の創出を目標に掲げて活動を展開しました。

けん玉体験会は、子ども向けには島内小学校のほか、島内保育所、島内児童センターなどで実施しました。また、高齢者向けには、百歳体操や町会ふれあい健康教室など、町会を単位に宣伝したところ、体験希望が上がってくるようになりました。公民館での体験会には 50 人を超える人たちが集まり、関心の高さが伺えました。

今年度の内には、子ども世代と高齢者世代との相互交流には至りませんでした。次年度以降世代間交流のできる場を創出していきます。



○けん玉を使ったストレッチ



○技の挑戦

(4) 今後の展開

引き続き、地区・町会の活性化のため、若者による活動の掘り起こしを行い、町会連合会として事業の支援を実施します。